

基本計画書

はじめに　これまでの経過	1
1　松阪まちなかの「松阪らしさ」の背景	2
2　松阪まちなかの歴史的背景	3
3　まちなかの観光ガイドンス機能の整理	4
4　当整備事業全体像	5
5　観光交流拠点とその周辺施設との連携・連続性	7
6　施設整備に係る諸条件	8
7　当整備事業の展示構成表	9
8　整備1）松阪もめん手織りセンターの機能移転、跡地活用／観光交流拠点（本館）の整備	10
9　整備2）旧長谷川邸の保存・活用／観光交流拠点（別館）の整備	12
10　整備3）松阪市立歴史民俗資料館の活用	18
11　整備4）ウォーキングルートの整備	21
12　施設整備事業費等及び費用対効果	25
13　施設運営に関する考え方	30
14　整備事業スケジュール	32
15　基本計画策定に向けて	33
16　観光交流拠点施設にかかる検討の経緯	34

はじめに ～これまでの経過～

松阪市は、戦国武将の「蒲生氏郷」による松坂城築城とともに誕生したまちで、江戸時代には江戸に店を持つ松阪商人を輩出し、三井・小津・長谷川といった豪商が生まれ、その商業活動を通じて松阪木綿といったブランド品が全国に移出された。

また、商業で栄えた松阪は国学者の本居宣長をはじめ、多くの学者・文人墨客を輩出するなど、歴史上の偉人を数多く生み出している。

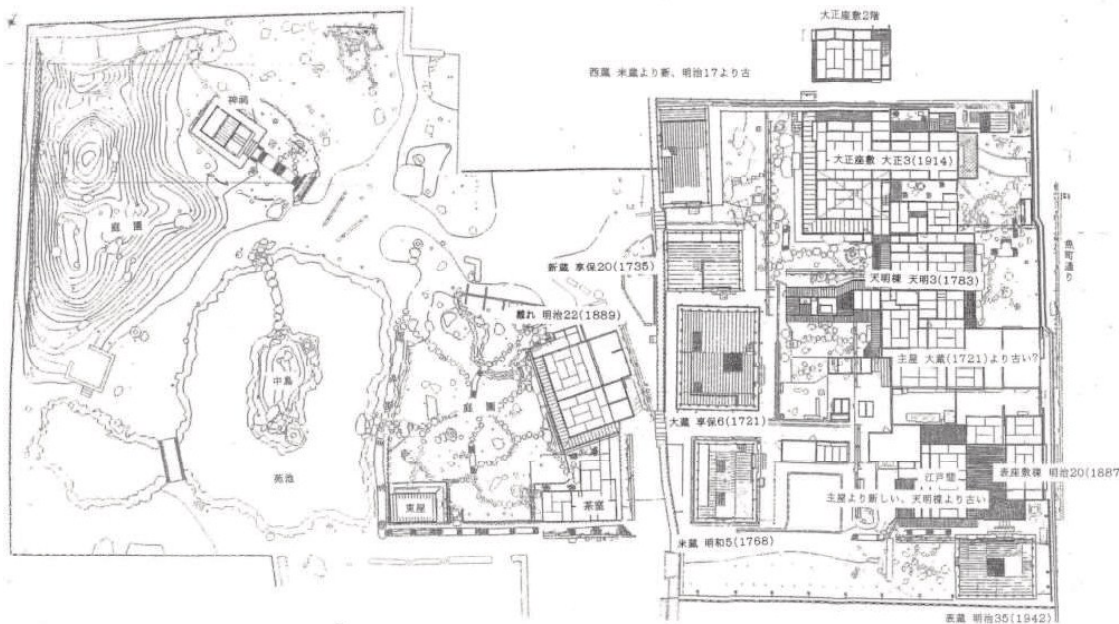
こうした偉人のたたずまいや豪商のまちなみ、武家屋敷、寺院、そしてまちなかを通る街道は、今なお存在し、かつての城下町の面影を今に伝え、魅力あるまちなかを創出している。

松阪市は、この城下町「松阪」が持つ脈々と継承されてきた「松阪らしさ」をまちづくり
に活かすとともに、これらを多様かつ有効に活用することで教育資質の向上や郷土
愛の醸成に努め、さらに磨きをかけて次の世代に継承していく必要があると考えて
いる。

こうしたなか、平成25年4月の旧長谷川邸の寄贈をうけ、これをきっかけとした、まちなかの観光振興を目的に旧長谷川邸に隣接する駐車場を購入した。

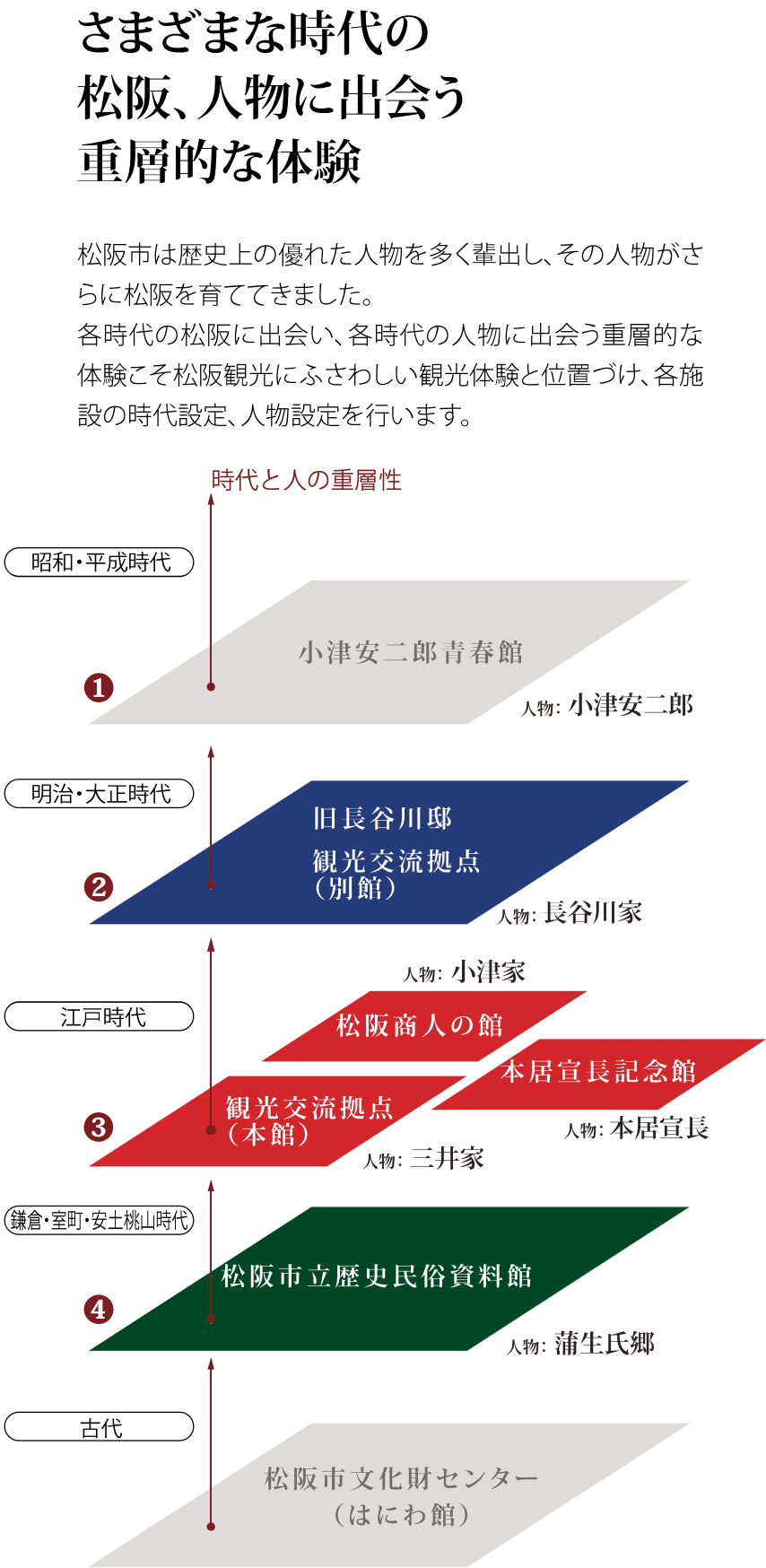
本事業は、観光振興の側面だけでなく教育の向上や景観形成の促進に向け、旧長谷川邸をはじめ既存の歴史的文化施設の有効活用とともに、各施設の連動性を重視した面的整備を図るため、必要な施設設備、機能、レイアウト、および運営方法などの具体的な検討を行うとともに、市民から意見をいただきながら、観光交流拠点施設等整備事業基本計画を策定することを目的とする。

旧長谷川邸



平成23年	7月	長谷川家1 4代当主より土地、建物の寄贈申し出
	9月	「松阪市まちなか歴史文化活用プロジェクト委員会」の設置 ・長谷川邸の活用策や歴史的文化遺産の連携について諮問
	10月	「松阪市まちなか歴史文化活用フォーラム」の開催 ・既存の歴史文化施設、長谷川邸、魚町別館（松阪もめん手織りセンター）等の活用に対する意見聴取
	12月	「松阪市まちなか歴史文化活用プロジェクト委員会」より『提言書』提出 ・長谷川家：松阪市が譲り受けて保存・活用。隣接する駐車場に所蔵資料等の展示等を行う資料館を整備。 ・魚町別館（松阪もめん手織りセンター）：観光案内、松阪木綿商品の販売と手織り伝承、三井家の歴史資料展示などを行う観光拠点として建て替え。
平成24年	8月	長谷川家の土地、建物等の寄贈を合意
平成25年	4月	長谷川家の土地、建物等が松阪市に寄贈
	5月	長谷川家から寄贈された土地、建物等を松阪市の文化財（史跡）に指定
	7月	旧長谷川邸の特別公開を開始
	8月	旧長谷川邸に隣接する駐車場を購入
	〃	観光交流拠点施設、旧長谷川邸の活用等について「市民意見聴取会」を開催 ・具体的なたたき台を提示（各施設整備イメージ図、VRシアターの導入等）
平成26年	3月	観光交流拠点施設等整備事業に係る基本構想調査・基本計画策定業務の公開型プロポーザル、および審査委員会を実施（委託業者を選定） ・株式会社トータルメディア開発研究所を最優秀提案者として選定。
	4月	観光交流拠点施設等整備事業に係る基本構想調査業務を開始 ・7月末まで
	5月	「観光交流拠点施設等整備事業庁内推進会議」を設置 ・構成：経営企画部 都市整備部（都市計画課、営繕課） 教育委員会事務局（文化課） 総務部（財務課） 環境生活部（環境・エネルギー政策推進課） 産業経済部（商工政策課、MADE IN まつさ課、観光交流課）
	7月	「観光交流拠点施設等整備事業推進委員会」を設置 ・構成：外部の有識者6名
	〃	「観光交流拠点施設等整備事業に係る基本構想調査意見交流会」開催
	8月	観光交流拠点施設等整備事業に係る基本計画策定業務を開始
	10月	「観光交流拠点施設等整備事業に係る基本計画中間報告意見交流会」開催
	11月	「観光交流拠点施設等整備事業に係る基本計画（案）意見交流会」開催
	12月	観光交流拠点施設等整備事業に係る基本計画書の作成

人物						その他				
	松阪の歴史	蒲生氏郷	三井家	長谷川家	小津家	本居宣長	文化・物産			
鎌倉・室町・安土桃山時代	1580	230年間、北畠氏が治める 織田信雄が松ヶ島城を築城 蒲生氏郷が松坂城を築城 服部一忠が松坂城主となる 古田重勝が松坂城主となる	1556	蒲生氏郷生誕 信長の娘・冬姫と結婚 千利休の弟子になる 松ヶ島城へ キリスト教洗礼 松坂城を築城 城下町や寺院が松ヶ島から松坂へ 会津城へ移封 1590 1595 死去				鎌倉時代	茶の栽培が始まる	
	1588		1570					室町時代頃	水銀（輕粉）製造が始まる	
	1591		不明							
	1595		1584					室町時代	松阪の商人が伊勢茶の元祖となる川俣茶を全国に広める（～江戸時代）	
			1584							
江戸時代	1619		1600頃	質屋兼酒屋を創業	1635	日本橋で紙問屋を開業 日本橋で木綿店を開業 旧小津清左衛門家（松阪商人の館）建設 前蔵を建設 内蔵を建設 紀州藩松坂御為替御用向座敷を建設	1691	祖父が隠居所を建設 本居宣長生誕 祖父の隠居所を自宅（本居宣長旧宅）とする 『松坂勝覧』を起筆 『大日本天下四海図』を起筆 医師を開業 『源氏物語』講釈終業 書斎「鈴屋」新築 『古事記伝』脱稿 1801 死去	1650頃	おかげ参りが流行 松阪木綿が伊勢土産として普及 松阪木綿織が流行 おかげ参りが流行
	1644	1622	三井高利生誕	1675	日本橋で木綿仲買を開業		1730		元禄期（1690頃）	
	1794	1634	京都に仕入店を開業	江戸	長谷川氏旧宅を建築 [増築]（～大正時代）		1700		1751頃	
	1804	1649	三井高利帰郷	江戸	長谷川旧宅の庭園を築造 [拡大]（～近代）		（前後）		1855頃	
	1863	1652	松坂で金融業を開始				1730			
明治・大正時代		1673	日本橋で呉服店開業							
		1683	江戸で両替商を開業							
		1686	京都で両替商を開業							
		1691	幕府為替御用							
		1694	三井高利死去							
昭和・平成時代	1876	二の丸御殿が焼失	1904	屋号を「三越」に変更 デパート宣言	1915	5店が合併 法人化	1875	本居宣長ノ宮創祀 旧宅を現在地へ移築	1873	ウィーン博覧会に松阪木綿出品 小津銀行設立 小津安二郎生誕
	1889	松阪町発足			1918		1909		1899	
	1893	松阪大火							1903	
昭和・平成時代	1933	松阪市誕生				1929 法人化 「松阪商人の館」一般公開	1953	旧宅と移築前の土地が国の特別史跡に指定 本居宣長記念館が開館	1935	松阪牛が名誉賞を受賞 小津安二郎監督『東京物語』がヒット 小津安二郎死去
	1945	空襲							1953	
	1951	松阪大火							1963	
	2004	御城番屋敷が国の重要文化財に指定								
	2005	1市4町合併								
2011	松坂城跡が国の史跡に指定									



(1) まちなかの特徴

様々な時代の松阪のまち・松阪人に出逢える歴史・文化が重層するまち松阪



偉才を生み育み、異彩を放つまち・松阪

一本の水路をはさんで世界的な企業家と思想家を育てた「ロマンとそろばん」のまち・松阪

政治・権力から適度な距離感が生む自由・街道沿いの自由・経済が導いた自由と伊勢・京・大坂・江戸にのみこまれない適度な距離感によって、様々な人が集い、出逢い、交流することで、商いで全国を、文化の力で世界をリードしてきたまち・松阪

(2) まちなかの主な観光施設

施設名称	施設テーマ・目的	展示概要
松阪市文化財センター (はにわ館)	・船形埴輪など、市内で発見された埴輪の公開。 ・旧カネボウ綿糸松坂工場綿糸倉庫の保存と活用。	・第1展示室は、常設展「宝塚古墳の謎」と題して、これらの埴輪を展示。 ・第2展示室は企画展スペースとして、市内外の埋蔵文化財資料の展示を行っている。 ・ロビーでは主にレプリカなどによる体験展示を行っている。
松阪市立歴史民俗資料館	「モノで語る松阪物語」。歴史資料や民俗資料を通じて松阪の文化を全体的に紹介。	・1F…金看板を中心に松阪商人の繁栄と、松阪のまちを築いた蒲生氏郷の紹介と松坂城に関する資料展示。 ・2F…松阪木綿、伊勢白粉など松阪商人を繁栄に導いた伝統産業と、民俗資料の紹介。 ・外構…ポンプ車など現在では貴重となった産業遺産や市内で収集された鬼瓦を紹介。
御城番屋敷 (公開住居)	武家屋敷の公開。	・邸内の公開。 ・簡単なパネル解説あり。 ・子ども向け伝統文化教室 (華道) など、イベント活用もを行っている。
御城番屋敷前 ポケットパーク	まちなか観光案内。	・まちなか観光のマップを設置。 ・休憩、喫煙スペース。 ・トイレ。
原田二郎旧宅	江戸時代から続く武士の住まいと、明治から大正期に活躍した実業家が生きた時代の建築の公開。	・邸内の公開。 ・部屋名などサイン表示あり。 施設紹介パンフを配布。
本居宣長記念館	本居宣長の顕彰と資料の保存。	・宣長の生涯や遺品と居宅などの常設展示と、宣長を様々な角度からとらえた企画展、特別展から構成される。 ・各種講座・講演の実施。 ・資料閲覧による公開活動。
鈴屋	本居宣長旧宅の公開。	・邸内の公開。 ・邸内立ち入り可 (土足厳禁)。 ・部屋名などサイン表示あり。 施設紹介パンフを配布。
松阪商人の館	豪商・小津清左衛門の邸宅と松阪商人の活躍を示す資料を紹介。	・邸内の公開。 ・邸内立ち入り可 (土足厳禁)。 ・部屋名などサイン表示あり。 内蔵内を展示室として活用。小津家の商いのようすを伝える資料や、江戸期の長者番付など松阪商人の栄華を示す資料を展示。
旧長谷川邸 (期間限定公開)	豪商・長谷川治郎兵衛家旧宅の公開。	・庭園、建家の一部を特別公開。 ・敷地内ガイドツアー実施。 米蔵内を展示室として活用。最近発見された千両箱や小判を展示。
三井家発祥地 (非公開)	三井グループの家祖・三井高利の生家跡地。	・高利が産湯をつかったという井戸 ・高利の祖父母・父母の五輪塔 ・第10代三井総領家当主・三井八郎衛門高棟の筆になる記念碑
松阪もめん手織りセンター	伝統工芸松阪もめんの普及と技術の継承。	・松阪木綿手織り体験の実施。 ・松阪木綿製品の販売。
小津安二郎青春館	世界的に高い評価を得ている小津安二郎監督の紹介と資料展示。	・外観は大正から昭和初期の映画館をモデルに再現 ・内部に、大正時代風の居間や映像室、記念ホール。 ・監督を紹介するビデオの放映 ・写真・代表作品のパネル ・青春時代の貴重な資料
松阪市観光情報センター	まちなか観光案内と宿泊など各種手配。	・まちなか観光のマップはじめ各施設のパンフレットを設置。 ・案内、各種手配カウンター業務。

【方針1】 まちなか観光案内 (ガイドス) の再編集

【方針2】 既存観光施設の更なる魅力化と新しい観光施設の整備による まちなか観光の強化

【方針3】

既存のウォーキングルートに加え、新しいウォーキングルートの設定

まちなかの小路をめぐるコース 参宮街道 (伊勢街道) をめぐるコース

【方針4】 市民の参画と協働

松阪市立歴史民俗資料館

城下町の生活文化を知る施設。

①松坂城と城下町の礎を築いた蒲生氏郷に関する理解促進
②松阪の城下町の生活文化に関する理解促進

旧長谷川邸 観光交流拠点 (別館)

長谷川家の繁栄と“未来”に出逢う施設。

①豪商の本質を垣間みることによる松阪商人への 好奇心の喚起
②江戸時代から守り伝えられてきた貴重な品々に触れることによる豪商の実感
③これから続く文化財調査結果の発表と共有

観光交流拠点 (本館)

まちなかに点在する松阪の魅力 (歴史・見どころ・体験プログラム) を一覧できる観光拠点施設。

①即効性のある観光情報の提供によるまちなか回遊性の促進
②松阪ならではの歴史の重層性を発信することによる好奇心の喚起
③松阪の多彩な魅力の発信による滞在時間の拡大

(1) 新たなまちなか観光の方向性

- 1. 「世界的な企業家と思想家を育てたまち・松阪」の異彩を感じとる
- 2. 「観光体験」創造型の松阪ツーリズムの実現

(2) 整備事業の基本的な考え方

観光交流拠点施設等の整備により各観光施設等のガイダンス機能の再編集

まちなかに点在している観光資源の更なる魅力化と、歴史的なつながりや相乗効果を高めるため、まちなか観光案内機能の再編集を行います。

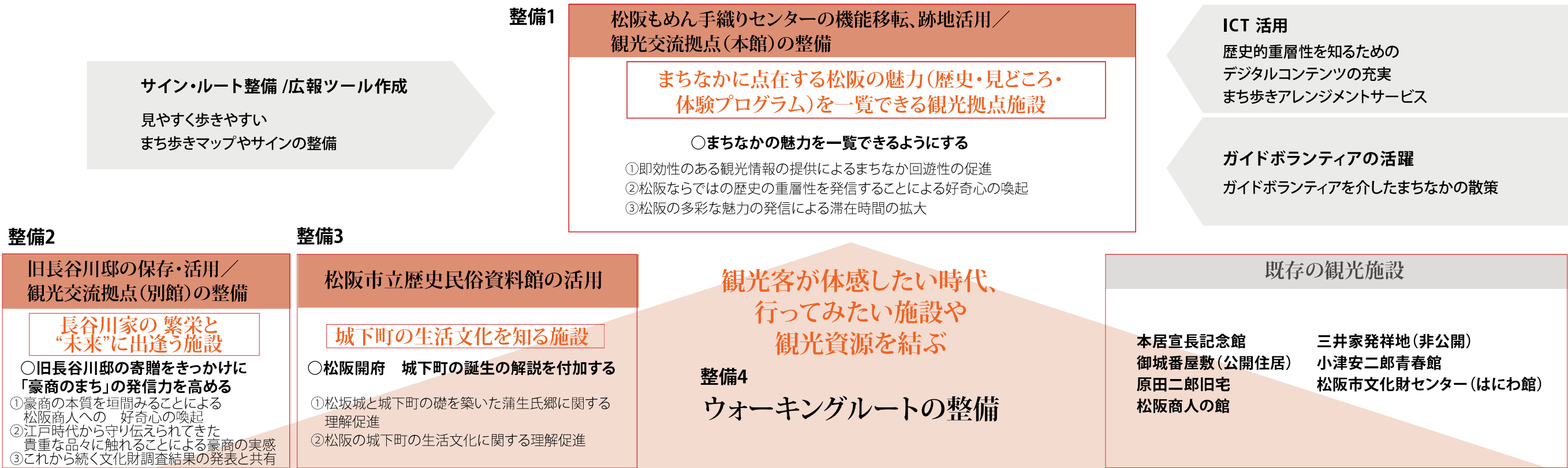
(3) 整備事業が目指すもの

まちづくり、ひとづくりの視点で観光振興を推進し新たな松阪文化を創造します

本整備事業は、単に観光施設を整備することに留まらず、その整備プロセスに市民参加の機会を提供していくことで、市民にとっての地域文化再発見を促すとともに、外部の松阪ゆかりの方々との接点を形成することで、自己啓発や触発を喚起して、本整備事業への関わりを深めるほか、自身の生活やまちづくりへの好影響をも及ぼしていくことを目指すものです。

(4) まちづくり、ひとづくりを促す観光振興「松阪ツーリズム」の実現への3つの再編集方針

回遊を促す拠点の整備	まちなかを楽しむストーリーの設定	まちをあげて取り組める「おもてなし」への参画ができる仕組みづくり
方針1 訪問者たちの観光のガイダンスとして、観光の出発点を担う拠点を整備。回遊そのものをガイドし、訪れるたびに新鮮なリピート性を高めるルートを設定します。 ガイダンス機能を強化する 初めて松阪を訪れた方でも回遊を楽しみたくなるガイダンス機能が充実した施設。模型やグラフィックにより地理的な様子を理解し、観光資源の見どころを提供し、ニーズにあった回遊を組み立てて街に繰り出すことができる出発地点となる機能を整備します。	方針2 点在する史跡や、さまざまな資産の整備、それらをつなぐルートに統一したテーマ性を設けて、訪れる方々が興味を持って回遊を、楽しむことができるストーリーを設定します。 〔ストーリーの例〕 まちなかを楽しむテーマを設定し、まちを巡る 松阪市は歴史上の優れた人物を多数を生み出し、その人物がさらに松阪を育ててきました。各時代の松阪に出会い、各時代の人物に出会う重層的な体験こそ松阪観光にふさわしい観光体験と位置づけ、各施設の時代設定、人物設定を行います。	方針3 地元の方々と携わる研究者、生業を含めてそれぞれの方々の松阪への自負や、誇りを「おもてなし」という行為によって参画できる仕組みをつくります。 市民の関わりを増やし、来訪者との交流を促す 交流 新たな発想や着想 最新の学術研究成果 参画 自己啓発・触発 新たな取り組みへ 松阪ゆかりの人々 学識者、有識者、文化人 財界人、マスコミ、観光事業者 松阪市民と周辺住民 ガイドボランティア、文化活動団体 市民、若者、商工会、商店街等



(5) 3つの再編集方針にもとづく施設整備内容の整理

当基本計画は、まちづくり、ひとづくりを促す観光振興「松阪ツーリズム」の実現のため、3つの再編集方針に基づき、4つの整備をめざしている。
このため、3つの再編集方針と4つの整備事業について以下に整理する。

方針

1

ガイダンス機能を強化する

整備1

松阪もめん手織りセンターの機能移転、跡地活用／観光交流拠点（本館）の整備

まちなかの魅力を一覧できるようにする

施設テーマ

まちなかに点在する松阪の魅力(歴史・見どころ・体験プログラム)を一覧できる観光拠点施設。
様々な松阪の魅力を総合的に発信する、まち歩き交流拠点施設。

施設のねらい

①即効性のある観光情報の提供によるまちなか回遊性の促進
②松阪ならではの歴史の重層性を発信することによる好奇心の喚起
③松阪の多彩な魅力の発信による滞在時間の拡大

整備2

旧長谷川邸の保存・活用／観光交流拠点（別館）の整備

旧長谷川邸の寄贈をきっかけに「豪商のまち」の発信力を高める

施設テーマ

長谷川家の 繁栄と“未来”に出逢う施設

施設のねらい

①豪商の本質を垣間みることによる松阪商人への好奇心の喚起
②江戸時代から守り伝えられてきた貴重な品々に触れることによる 豪商の実感
③これから続く文化財調査結果の発表と共有

整備3

松阪市立歴史民俗資料館の活用

松阪開府 城下町の誕生の解説を付加する

施設テーマ

城下町の生活文化を知る施設

施設のねらい

①松坂城と城下町の礎を築いた蒲生氏郷に関する理解促進
②松阪の城下町の生活文化に関する理解促進

整備4

ウォーキングルートの整備

既存のウォーキングコースを基本に新たなコース設定と整備

既存のウォーキングコースは、蒲生氏郷コース(武将の道)、三井高利コース(豪商の道)、本居宣長コース(国学の道)といった人物にフォーカスした3つのコースを推奨ルートとしています。これらに加え、女性が楽しめる街歩き、松阪の季節季節を彩るお花を添える街歩きができるよう、新しいテーマを設定します。

方針

2

まちなかを楽しむテーマを設定し、まちを巡る

■既存のウォーキングコース

- テーマ1
- 城下町
- 蒲生氏郷コース 武将の道
- テーマ2
- 豪商のまち=商都
- 三井高利コース 豪商の道
- テーマ3
- 国学のまち
- 本居宣長コース 国学の道

■新規のコース

- テーマ1
- 女性が輝くまち
- ・女性が着物を召して歩きたくなるコース
・美容と健康のため美味しい食事などが取れるコース
・緑豊かなコース
・夕日が綺麗なコース

- テーマ2
- 花咲くまち
- ・松阪の季節を感じるコース
・城下、殿町に集中しているが、
※各コースに花を添える花の情報を発信する

松阪三花

・松坂なでしこ
・松阪花菖蒲
・松阪菊

・しだれ桜
・黒椿
・さざんか

・銀もくせい
・ひとつばたご
(なんじゃもんじゃの木)

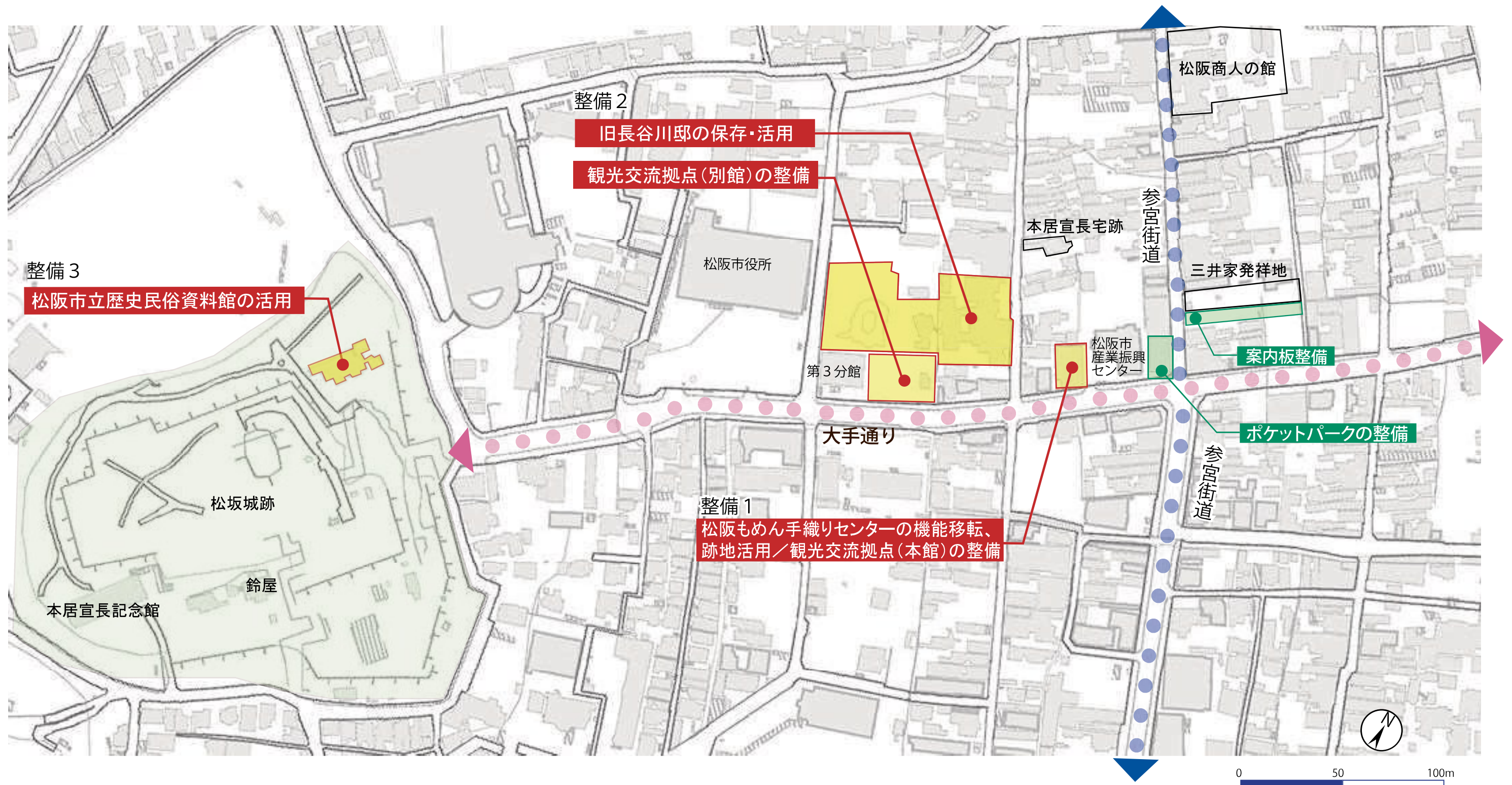
方針

3

市民の関わりを増やし、来訪者との交流を促す

観光交流拠点(本館・別館)とその周辺施設との連携・連続性を図る整備とします

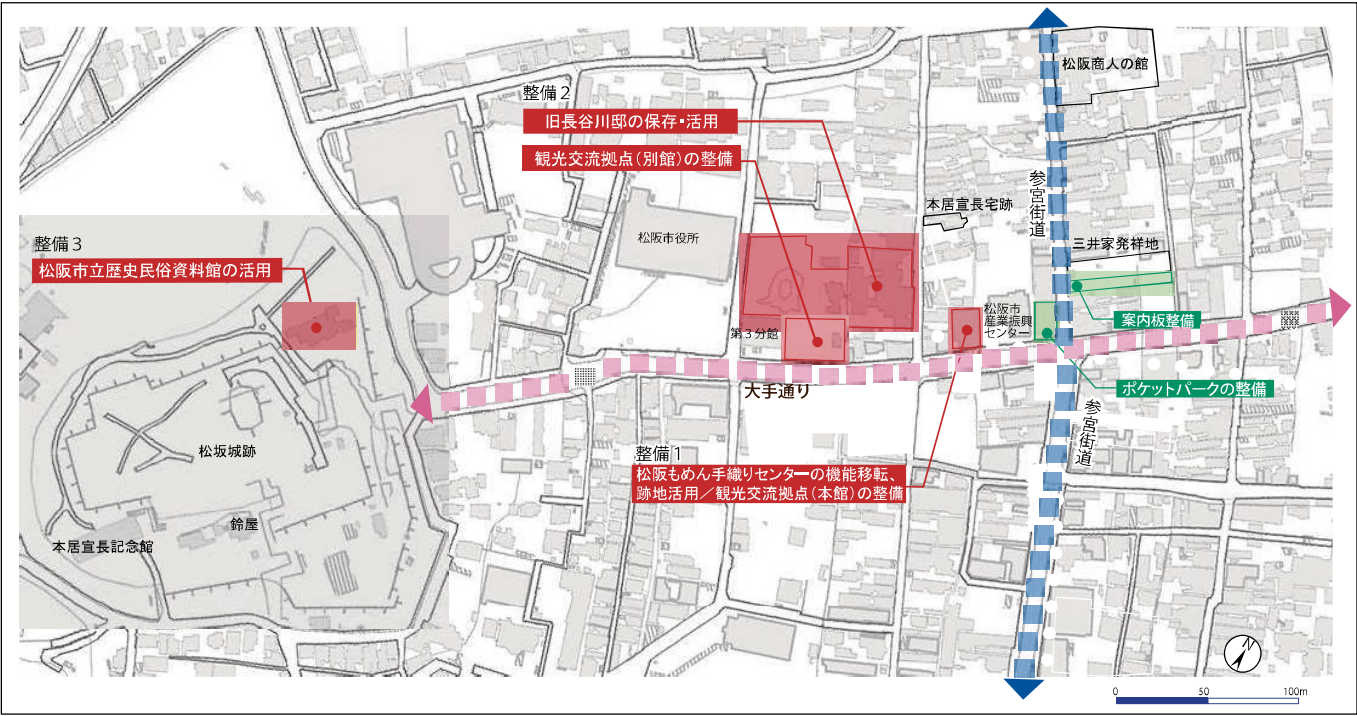
観光交流拠点(本館・別館)の整備に伴い、近接する松阪市産業振興センターとの機能連携及び、今後整備される予定のポケットパークとの連続性を確保し、大手通りに面して整備される施設群を一体的に捉える。これにより、松阪商人の館(小津家)に旧長谷川邸(長谷川家)、三井家発祥地(三井家)等を加え「豪商のまち」の発信力を強化する。



6 施設整備に係る諸条件

施設整備にかかる諸条件を以下に整理する。

(1) 整備施設位置図



(2) 整備敷地条件

	整備1 観光交流拠点（本館）	整備2 観光交流拠点（別館）	整備3 松阪市立歴史民俗資料館
建築行為	新築	新築	改修
整備検討地	松阪もめん手織りセンター跡地	旧長谷川邸隣接地	
用途地域	商業地域	第二種住居地域	第二種中高層住居専用地域
建蔽率	80%	60%	60%
容積率	400%	200%	200%
地域地区	準防火地域	指定なし	指定なし
	景観重点地区	景観重点地区	景観重点地区
	・建築物高さの最高限度：12m ・配置（道路に面する壁面位置） 1・2階：伝統的な町屋の壁面と揃える 3階以上：後退させる ・構造：基本、木造 ・屋根：基本、勾配屋根 ・軒・庇：設けること	・建築物高さの最高限度：12m ・配置（道路に面する壁面位置） 1・2階：伝統的な町屋の壁面と揃える 3階以上：後退させる ・構造：基本、木造 ・屋根：基本、勾配屋根 ・軒・庇：設けること	・建築物高さの最高限度：12m ・配置（道路に面する壁面位置） 1・2階：伝統的な町屋の壁面と揃える 3階以上：後退させる ・構造：基本、木造 ・屋根：基本、勾配屋根 ・軒・庇：設けること
	路上喫煙禁止区域（前面道路）	路上喫煙禁止区域（前面道路）	路上喫煙禁止区域
			国指定史跡（松坂城跡）
その他			国の登録有形文化財
敷地面積	368㎡	969㎡	

前提条件	建築計画	・観光交流拠点施設として効果効率的に機能発現させるため、別館や隣接する産業振興センター・駐車場、平成27年度整備予定のポケットパークと一体的に検討する。 ・隣接する第3分館は長期的回復を図り、敷地を当該検討地と一体的に活用を図る。	・増築部分は、長期的回復を図り、往時の左右対象の外観に戻すことを前提に、現状活用する。 ・耐震診断に基づく耐震補強を前提に計画する。
	展示計画	・現建築計画では、美術館・博物館相当施設の設備を予定していないため、資料保護の観点から実物資料の展示は避け、ICTの活用やグラフィック、レプリカを中心とした展示で構成する。 ・現建築計画では、美術館・博物館相当施設の設備を予定していないため、資料保護の観点から実物資料の展示は避け、ICTの活用やグラフィック、レプリカを中心とした展示で構成する。	・既展示の民俗資料は、移転、收藏、処分を見極め、当計画に積極的に活用を図るとともに、ICTの活用やグラフィック、レプリカを中心とした展示で構成する。

(3) 整備施設主要諸室面積表

整備1 観光交流拠点(本館)					
階層	機能	諸室	備考	各諸室面積(㎡)	床面積(㎡)
1階	まちなか観光案内	まちなか観光案内	マップ	120	180～200
			グラフィック		
			まち歩き アレンジメントサービス		
		ガイドボランティア拠点	資料や荷物を置く程度	5	
	物販	ワゴン販売で検討	15		
	休憩機能	トイレ	・40人集中利用 男性用：大→2、小→3、手→2 女性用：大→4、手→3 身障者用：1	40	
	管理機能	事務所	4名程度の執務空間	20	
必要床面積 計				200	
2階	情報発信機能	ものがたりシアター	映像映写 40席程度	80	180～200
		展示スペース	40人控え可能面積	80	
	管理機能	倉庫	備品収納程度	10	
	必要床面積 計				170
必要床面積 合計				370	360～400

※その他・・・機械室、空調室、階段、EV（13人乗り）等

整備2 観光交流拠点(別館)					
階層	機能	諸室	備考	各諸室面積(㎡)	床面積(㎡)
1階	まちなか観光案内	まちなか観光案内	情報端末の設置に必要なスペース	-	580
	体験提供機能	松阪木綿情報展示 松阪木綿製品展示 木綿づくり体験コーナー	松阪もめん手織りセンター機能	200	
	管理機能	事務所	4名程度の執務空間	20	
		倉庫	備品収納程度	10	
		給湯室	ミニキッチン	5	
	休憩機能	トイレ	・40人集中利用 男性用：大→2、小→3、手→2 女性用：大→4、手→3 身障者用：1	40	
必要床面積 計				275	
2階	情報発信機能	常設展示コーナー	40人控え可能面積	160	
		企画展示コーナー			
	休憩機能	展望コーナー	20人程度が座して展望	40	
必要床面積 計				200	
必要床面積 合計				475	

※その他・・・機械室、空調室等

整備3 松阪市立歴史民俗資料館					
階層	機能	諸室	備考	各諸室面積(㎡)	床面積(㎡)
1階	まちなか観光案内	まちなか観光案内	情報端末の設置に必要なスペース	-	
	情報発信機能	展示コーナー 企画展示コーナー	既存展示面積	165	
	必要床面積 計			165	
2階	情報発信機能	展示	既存展示面積	75	
	必要床面積 計			75	
展示床面積 合計				240	

7 当整備事業の展示構成表

当整備事業では、既存のまちなか観光ガイドンス施設と機能分担および機能連携をはかり、今回整備される観光交流拠点（本館・別館）、旧長谷川邸、松阪市立歴史民俗資料館での新たな展示により、まちなかの観光ガイドンス機能の再編集、強化をめざしている。

このため、今回、新設される展示内容について以下に整理する。

整備事業名	施 設 構 成						展 示 構 成				
	施設名称	施設テーマ	施設のねらい	施設構成	ゾーン	諸室構成					
整備1 松阪もめん手織りセンターの 機能移転、跡地活用／ 観光交流拠点(本館)の 整備	観 光 交 流 拠 点 （ 本 館 ）	まちなかに点在する松阪の魅力(歴史・見どころ・体験プログラム)を一覧できる観光拠点施設。 様々な松阪の魅力を総合的に発信する、まち歩き の交流拠点施設。	1.即効性のある観光情報の提供によるまちなか回遊性の促進 2.松阪ならではの歴史の重層性を発信することによる好奇心の喚起 3.松阪の多彩な魅力の発信による滞在時間の拡大	1F ガイドンスフロア	観光案内ゾーン	まちなか観光案内	松阪のまちなかを見どころを総合的に案内。来場者が情報を一覧し、好みに応じた観光ルートを選択できるしかけを行う。				
						ガイドボランティア拠点					
						物販					
					共用ゾーン	トイレなど					
					管理ゾーン	事務所					
				2F 展示フロア	展示ゾーン	ものがたりシアター	①「松阪ものがたり」(VR映像) 偉才を生み育み、異彩を放つまち松阪				
						展示室	②豪商の活躍 松阪が、江戸時代に一世を風靡した松阪商人を輩出したまちであることを伝える。				
	③参宮街道とまちのにぎわい 古代から近代まで交通の要所としてのにぎわいが継続していること、特に松阪が、要所と伊勢を結ぶ重要な役割を果たした参宮街道沿いの宿場町であったことを伝える。										
	管理ゾーン	倉庫									
整備2 旧長谷川邸の保存・活用／ 観光交流拠点(別館)の 整備	旧 長 谷 川 邸	長谷川家の 繁栄と“未来”に出逢う施設	1.豪商の本質を垣間みることによる松阪商人への好奇心の喚起 2.江戸時代から守り伝えられてきた貴重な品々に触れることによる豪商の実感 3.これから続く文化財調査結果の発表と共有	建物	公開ゾーン	公開・活用(実物展示)	建物 現存する建物そのものが文化財であり貴重な展示物であることを伝える場。				
					非公開ゾーン	男部屋、炊事場など 蔵(表蔵、米蔵、新蔵、西蔵) トイレ 物置					
					管理ゾーン						
	観 光 交 流 拠 点 （ 別 館 ）	長谷川家の 繁栄と“未来”に出逢う施設	1.豪商の本質を垣間みることによる松阪商人への好奇心の喚起 2.江戸時代から守り伝えられてきた貴重な品々に触れることによる豪商の実感 3.これから続く文化財調査結果の発表と共有	1F ガイドンスフロア	観光案内ゾーン	まちなか観光案内	まちなか観光案内				
					松阪木綿ゾーン	木綿づくり体験	松阪木綿の紹介				
						木綿情報展示	松阪もめん手織りセンター機能と松阪木綿関連情報展示の拡充。				
						木綿製品展示					
共用ゾーン					トイレ						
管理ゾーン				休憩所コーナー							
				事務所							
				倉庫							
2F 展示フロア				展示ゾーン	現存する旧長谷川邸の魅力や見どころを伝えけるとともに、長谷川家の歳時記・所蔵品などを通じて、豪商の価値観・教養・知恵などを知る場		展示	①旧長谷川邸の変遷 旧長谷川邸の概要と建造物(建物・庭園)の魅力と見どころを伝える。 ②木綿問屋「丹波屋」 の紹介 長谷川家が商っていた木綿に関する情報を提供。豪商となった背景を伝える。 ③豪商の生活文化 豪商として全国に名を馳せた長谷川家の暮らしの実態や本質を伝える。			
						企画展示					
						共用ゾーン	展望コーナー				
整備3 松阪市立歴史民俗資料館 の活用	松 阪 市 立 歴 史 民 俗 資 料 館	城下町の生活文化を知る施設	1.松坂城と城下町の礎を築いた蒲生氏郷に関する理解促進 2.松阪の城下町の生活文化に関する理解促進	1F 展示フロア	展示ゾーン	まちなか観光案内	まちなか観光案内				
						展示コーナー	①蒲生氏郷の生涯 初代松坂城主である蒲生氏郷の人生について伝える。 ②松坂城築城と松阪開府 蒲生氏郷により城下町がつくられ、商都まつさかの基盤ができたことを伝える。 ③紀州藩・御城番 御城番の役割と現存する長屋の資料的価値を伝える。				
							企画展示コーナー (梶井基次郎 等)				
					共用ゾーン	休憩スペース トイレなど					
					管理ゾーン	事務所					
				2F 展示フロア	展示ゾーン	城下町の生活文化にふれる場	展示室	①松阪の変遷 城下町を中心とした松阪のまちの成り立ちについて伝える。 ②城下町の暮らし まちなかの人々の暮らしをリアルに伝える。 ③松阪の産業 江戸時代から現在までの産業の変遷について伝える。			
								屋外 展示・体験の場	展示ゾーン	鬼瓦ギャラリー 藍畑	屋外展示

(1)施設テーマ

まちなかに点在する松阪の魅力(歴史・見どころ・体験プログラム)を一覧できる観光拠点施設。
様々な松阪の魅力を総合的に発信する、まち歩き的交流拠点施設。

松阪木綿や松阪商人を入口として、歴史、国学、経済、交通、産業など、様々な分野にわたる松阪の魅力を集約し、
様々な時代の松阪、人物に出会う重層的な体験を提供するまちなか観光へ誘う観光と交流の拠点施設とします。

(2)施設のねらい

1	即効性のある観光情報の提供による まちなか回遊性の促進	2	松阪ならではの歴史の重層性を 発信することによる好奇心の喚起	3	松阪の多彩な魅力の発信による 滞在時間の拡大
---	--------------------------------	---	-----------------------------------	---	---------------------------

(3)施設構成

1F ガイダンスフロア

まちなかの観光情報を魅力的に
発信し、まち歩きを促す場

●観光案内ゾーン●

・まちなか観光案内 ・ガイドボランティア拠点

●共用ゾーン

・物販 ・トイレなど

●管理ゾーン

・事務所

2F 展示フロア

松阪の歴史の重層性と
多彩な魅力を発信する場

●展示ゾーン●

・ものがたりシアター ・展示室

●管理ゾーン

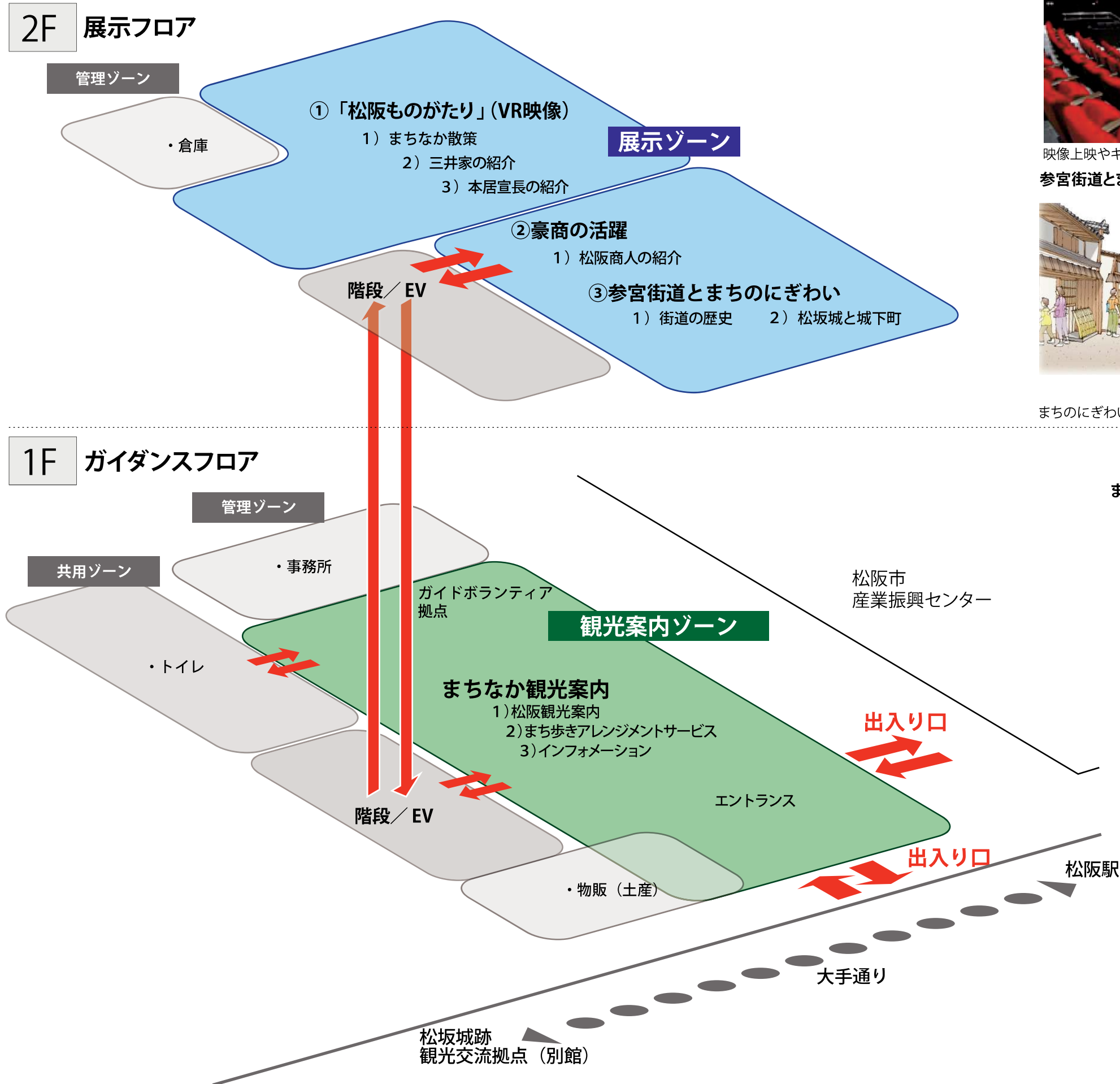
・倉庫

(4)展示構成

大項目(ねらい)	中項目	(内容)	展示の考え方
まちなか観光案内 松阪のまちなかの見どころを総合的に案内。来場者が情報を一覧し、好みに応じた観光ルートを選択できるしかけを行う。	1) 松阪観光案内	松阪のまちなかの見どころを総合的に紹介。	来訪者が松阪のまちなかにどのような見どころがあるかを一覧できる 大型グラフィック を設置する。松阪市中心部の イラストマップ をベースに、見どころを名称と、文化財、見学施設などカテゴリー別に表現した見どころマップとする。マップとは別に見どころごとの概要情報を表示する。
	2) まち歩きアレンジメントサービス	数々のまちなかの見どころを、来訪者の好みに応じてつなぎ、オリジナルの観光ルートを提示する。	来訪者の趣味や興味に個別に対応し、より満足度の高いまちなか観光の機会を提供するために、 情報検索とまち歩きアレンジメントサービス を行う。
	3) インフォメーション	各種案内など人的対応による観光案内。	来訪者自身によるセルフの情報検索だけでは対応しきれない、きめ細やかな情報提供サービスを行うための人員を配置する。

① 「松阪ものがたり」(VR映像) 偉才を生み育み、 異彩を放つまち松阪	1) まちなか散策	偉才を生み育む背景を紹介する。 松坂城築城や城下町建設、お伊勢参りの様子、松阪木綿の流行、松阪商人の江戸での活躍など、松阪ならではのできごとを印象づける映像。時代の流れや観光施設の位置、地場産業など、松阪の魅力が俯瞰できるようにする。	松阪のまちが偉才を生み育んできた背景を紹介する。松阪の特徴や魅力を伝えることが主眼であるため、ストーリー性やドラマ性が重要であり、かつ現在では見ることができないことや、実物資料＝モノによる展示ではすべてを伝えることが難しいため、 実写、アニメ、再現CGなどによるオリジナル映像番組 を制作し上映する。
	2) 三井家の紹介	三井家の商売はじめ、三井高利による江戸進出、現金販売の薄利多売方式の成功、三井家の家訓などを紹介。その後世界で活躍することになる三井グループの原点が松阪にあることを伝える。	
	3) 本居宣長の紹介	松阪が生んだ偉才の一人である本居宣長の紹介と、彼を育んだ背景を伝える。	
② 豪商の活躍 松阪が、江戸時代に一世を風靡した松阪商人を輩出したまちであることを伝える。	1) 松阪商人の紹介	松阪開府当時に活躍した鈴木家、小野田家など「蔵方」から、江戸中期以降に台頭した三井家、長谷川家、小津家など、いわゆる「江戸店持ち」まで、松阪商人の商売の特徴や活躍のようすを紹介する。 現在もまちなかで松阪商人の館や長谷川家が保存公開され、その住まいや暮らしぶりを垣間見ることができることを伝える。	まちなかの施設において点在している松阪商人に関する基礎情報および、各商人の個別情報について イラストなどを交えたグラフィック でわかりやすく解説する。
③ 参宮街道とまちのにぎわい 古代から近代まで交通の要所としてのにぎわいが継続していること、特に松阪が、要所と伊勢を結ぶ重要な役割を果たした参宮街道沿いの宿場町であったことを伝える。	1) 街道の歴史	松阪の立地的特性を紹介。奈良・平安時代には、都と東国を結び、伊勢神宮を中心とする道路網が開かれ、要所と伊勢を結ぶ街道として重要な役割を果たしたことを伝える。 参宮街道が繁栄を極めた江戸時代にスポットをあて、参宮街道のルートや宿場町、一里塚や茶屋のほか、大和街道や伊賀街道など県内の歴史街道の特性を紹介する。 松坂宿には本陣・脇本陣・伝馬所などが置かれ、土産物店や生活用品店、宿泊施設などがあったことを紹介。道路を横断できないほど多くの参詣者であふれ、モノや情報の集積地として活況を呈していたことを伝える。	大型タッチパネルモニターによる体験型映像システム により松阪のまちの特徴を紹介する。松阪市中心部のマップをベースに来訪者がまちなかの見どころを俯瞰できるという点では松阪観光案内と同じであるが、ここでは ICT技術によりマップ上の同地点の歴史の変遷や、現存しない風景を再現することが可能 なため、松阪ならではの歴史の重層性を見せることができる。また、来訪者の個別の興味関心に応じた多岐にわたる情報提供が可能であり、来訪者のさらなる好奇心の喚起に結びつける。
	2) 松坂城と城下町	蒲生氏郷により松坂城が築城され、近江商人で知られる旧領の近江から商人を招いて城下町づくりを行ったことなど、城下町松阪のなりたちの概要を紹介する。	

(5) 展示ゾーニングおよび動線計画案

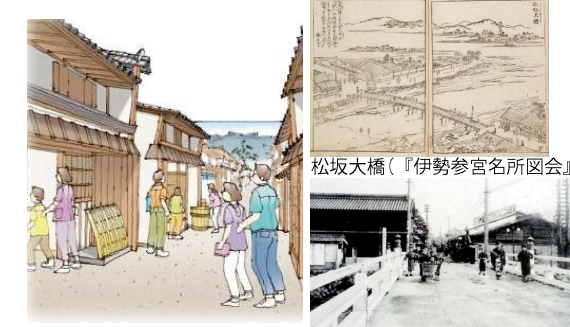


松阪ものがたり(VR映像)



映像上映やギャラリーなどが可能な多目的スペース

参宮街道とまちのにぎわい



松坂大橋

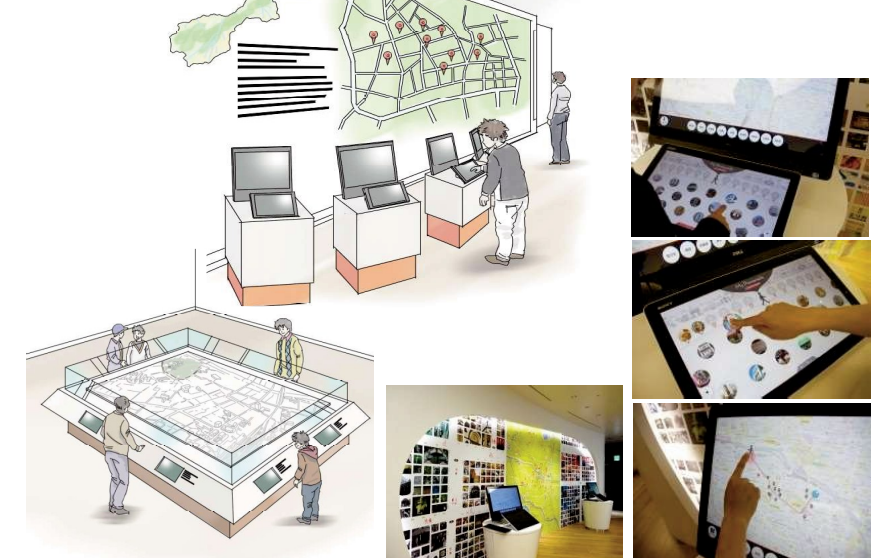
まちのにぎわいを示す絵図や看板など歴史資料(レプリカ)

豪商の活躍



家紋などをモチーフにしたグラフィックデザイン演出

まちなか観光案内



まちなか観光の大型マップ 情報検索と、まち歩きアレンジメントサービス
情報端末によるトピックス解説(ジオラマ上の要素と連動した情報提供)